# 「第3波」備えエクモ学ぶ

## 県内34人 高知大で講習会

新型コロナウイルス感染症の重篤患者に使う人工心肺装置「ECMO（エクモ）」の講習会が14日、南国市の高知大学医学部で開かれた。新型コロナ治療の「切り札」と期待される一方、医療現場ではコロナに適応させた使用経験が少ないことが課題とされる。県内4医療機関の医師と看護師、臨床工学技士の34人が「第3波」に備え使用時の留意点を学んだ。（山本 仁）

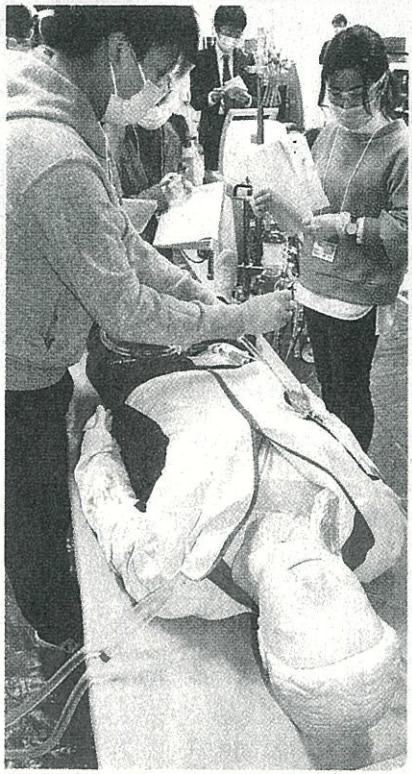
エクモは血液をポンプで体外に取り出し、人工肺で酸素を加えて再び体内に戻す。人工呼吸器で治療できないほど肺機能が低下した重症者に使い、肺を休ませて回復を待つ。県によると、県内4病院に計10台あるが、コロナ患者に使用した例はない。

使用中は臨床工学技士や看護師の24時間管理が必要。コロナ患者の場合は、心臓疾患などより長く2週間以上使うこともあり、人材育成が急務になっている。

厚生労働省が集中治療専門医らの団体に委託し、全国で講習会を開催。この日は高知大医学部付属病院▽高知医療センター▽高知赤十字病院▽近森病院―の職員が受講した。

参加者はエクモ使用中に起こり得る合併症のリスクなどを学んだ後、患者に見立てた人形で装着を実践。太ももと首の静脈にチューブを挿入し、トラブル時の対応などを体に覚え込ませていた。

高知大付属病院の看護師、矢野晋平さん（33）は「エクモを扱う機会は少なく、いい経験になった。いつ患者さんが来るか分からない。しっかり対応できるよう準備したい」と話した。



エクモの使用方法を学ぶ参加者（14日午後、南国市岡豊町小蓮の高知大医学部）

20 11 15
高知新聞
24